

MOUSA¹

ムーサ

令和4年度

高等学校用教科書 音楽 I

27教芸 (令和4教 内容解説資料)



目次	MOUSAの特徴……………3	創作……………13
	改訂のポイント1……………4	鑑賞……………14
	改訂のポイント2……………6	資料……………15
	改訂のポイント3……………8	年間指導計画例……………16
	歌唱……………10	指導書について……………18
	器楽……………12	検討の観点別に見た特色……………19

MOUSAは、
ムーサ

「卒業後も手元に残しておきたい教科書」であることを
刊行以来のコンセプトにしています。

令和4年度から使用される新しいMOUSA1では、
音楽の魅力をさらに多面的に学べるようにしました。



特徴1

授業スタイルに合わせて選曲することができる!

さまざまなジャンルから教材性の高い曲を厳選

「ジャンル別MAP」を示すことで、生徒が幅広く音楽と関わることができるよう、また、多様な状況に対応できるよう配慮しています。

ジャンル別MAP【歌唱・器楽編】

歌曲

Ave Maria ▶ P.10
小さな空 ▶ P.22
O sole mio ▶ P.25
Caro mio ben ▶ P.26
むすむす ▶ P.48
この道 ▶ P.50
Heidenroslein(ヴェルナー) ▶ P.56
Heidenroslein(ヴェルナー) ▶ P.57
Ich liebe dich ▶ P.58
ハノネラ ▶ P.74
闘牛士の歌 ▶ P.75

ソルフェージュ ▶ P.18

心の歌

花 ▶ P.21
夏の思い出 ▶ P.52
春の予て ▶ P.16
日曜日の使者 ▶ P.38
冬景色 ▶ P.118
故郷 ▶ P.119

ゴビュラーソング

Lemon ▶ P.12
翼をください ▶ P.14
負けないで ▶ P.15
春の予て ▶ P.16
日曜日の使者 ▶ P.38
見上げてごらん夜の星を ▶ P.64
Memory ▶ P.68
美女と野獣 ▶ P.70
オーシャンゼリゼ ▶ P.76
タイムマシンにおねがい ▶ P.107
築家ブイクワ ▶ P.114
クリスマス・イブ ▶ P.115

合唱曲

翼をください ▶ P.14
花 ▶ P.21
夏の思い出 ▶ P.52
Heidenroslein(ヴェルナー) ▶ P.57
見上げてごらん夜の星を ▶ P.64
冬景色 ▶ P.118
故郷 ▶ P.119
荒野の果てに ▶ P.120
懐かしきケンタッキーの我が家 ▶ P.121
負けないで ▶ P.122
ぼくは、ぼく ▶ P.125
おんがく ▶ P.128

和楽器

篠笛 ▶ P.88
たここ あがれ/守歌/さくら/お囃子 ▶ P.89
三味 ▶ P.90
安波節 ▶ P.90
海の声/ていざくゆ花 ▶ P.91
三味線 ▶ P.92
花笠音頭 ▶ P.92
(寄りの合方) ▶ P.93
串 ▶ P.94
(さくら)民謡 ▶ P.94
(初級) ▶ P.95

アンサンブル

Plymouth Rock ▶ P.30
Clap, Tap with CUPS! ▶ P.32
ミュージックインボックスのテーマ ▶ P.42
星に願いを ▶ P.44
ザナルカンドにて ▶ P.63
お囃子 ▶ P.89
タイムマシンにおねがい ▶ P.107

ウクレレ ▶ P.34

Michael, Row The Boat Ashore ▶ P.35
真珠貝の歌 ▶ P.35

ギター ▶ P.36

日曜日の使者 ▶ P.38
第三の男のテーマ ▶ P.40

世界の子民族の音楽

宗義道アラン ▶ P.99
美しいエンメンタル ▶ P.99

【資料編】

口絵

Invitation to Music! ▶ P.2
Drums! 鼓動は時を越えて ▶ P.4
国立音楽堂 ▶ P.6

総論

ギター・パーカッションを楽しむ ▶ P.31
Let's Play the GUITAR 1 ▶ P.39
Let's Play the GUITAR 2 ▶ P.41
チャムでアンサンブルを楽しもう ▶ P.45
リコーダーの運指表 ▶ P.60
TAB(タブ)演奏の読み方 ▶ P.63
尺八について ▶ P.79
鍵盤について ▶ P.98
バンド・アンサンブルに挑戦 ▶ P.106
ギター/キーボードコード表 ▶ P.156

歌唱

ヴォイス・トレーニング ▶ P.10
Ave Maria) を歌う際 ▶ P.11
イタリア語の歌を歌おう ▶ P.24
Caro mio ben 大解説 ▶ P.28
日本と音楽 ▶ P.49
詩の心を大切に歌おう ▶ P.49

歴史

日本音楽のあれこれ ▶ P.82
郷土の民謡と音楽 ▶ P.96
What is JAZZ? ▶ P.102
Rock History ▶ P.104
歌謡からJ-POPへの100年 ▶ P.112
西洋音楽のあれこれ ▶ P.138
作曲家の年表と主な作品 ▶ P.158

楽典

3連符 ▶ P.14
シンクォーション ▶ P.17
アウフタクト ▶ P.59
楽譜 ▶ P.150
西洋音楽の楽譜と記号 ▶ P.153
コードネーム ▶ P.154

その他

アレンジャーは曲に魔法をかける ▶ P.13
音楽用語とイタリア語 ▶ P.24
新曲集 ▶ P.66
楽譜や楽譜集に行こう ▶ P.69
ハバネラリズム ▶ P.75
音楽家へのさまざまなメッセージ ▶ P.130
オーケストラを知ろう ▶ P.148

(P.8・9 ジャンル別MAP)

特徴2

どの教材も扱いやすい!

生徒に日々接している先生方の実践的なアイデアを具現化

MOUSA1に掲載している歌唱や器楽の全ての教材については、著者と編集部が試演を重ね、音域や演奏のしやすさなどを検討しました。また、創作では、生徒が取り組みやすい手順を示しています。

創作

オノマトペでリズム・アンサンブルをつくらう

「オノマトペ」とは、動物や自然現象などに由来する擬音語のこと。動物の鳴き声や自然現象の音などを、文字で表したものがオノマトペです。オノマトペは、リズムや音の強弱を表現するのに非常に効果的です。

1. 4〜5人組のグループを5〜6組。楽器として1人1台楽器を用意する。

2. グループごとにオノマトペをテーマに、オノマトペを使ったリズム・アンサンブルを作ります。

3. グループごとに発表し、他のグループからオノマトペを採り入れ、オノマトペを使ったリズム・アンサンブルを作ります。

4. 発表する順番を決めます。発表する順番を決めたら、発表する順番通りに発表します。

5. 発表が終わったら、発表したオノマトペを採り入れ、オノマトペを使ったリズム・アンサンブルを作ります。

オノマトペによるアンサンブル【鳥たちの賛歌】

1. 4〜5人組のグループを5〜6組。楽器として1人1台楽器を用意する。

2. グループごとにオノマトペをテーマに、オノマトペを使ったリズム・アンサンブルを作ります。

3. グループごとに発表し、他のグループからオノマトペを採り入れ、オノマトペを使ったリズム・アンサンブルを作ります。

4. 発表する順番を決めます。発表する順番を決めたら、発表する順番通りに発表します。

5. 発表が終わったら、発表したオノマトペを採り入れ、オノマトペを使ったリズム・アンサンブルを作ります。

(P.86・87)

特徴3

丁寧な学習プロセスの提示!

生徒が達成感を得られる内容

これまでの個々の音楽経験に関係なく、全ての生徒が「楽譜を読めるようになった」「楽器を演奏できるようになった」と実感できるように、段階を踏んで取り組める内容になっています。

ギター

ギターは、音楽の世界で最も人気のある楽器の一つです。初心者でも簡単に演奏できるようになっています。

1. ギターの各部の名前を覚えよう。

2. 基本の演奏方法を覚えよう。

3. チューニングの方法を覚えよう。

4. リズムを覚えよう。

5. フォルディングギターを演奏しよう。

ギターの各部の名前

基本の演奏方法

チューニングの方法

リズムを覚えよう

フォルディングギターを演奏しよう

(P.36・37)

3

新しい MOUSA① 改訂のポイントは――

ムーサ



改訂の
ポイント
1

分かる・できる

生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力の育成と、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指します。

▽ 作曲家の生涯と作品から学ぶ音楽文化と歴史

作曲家の生きた時代背景や当時の生活などについて深く知ることができる「クローズ・アップ・マエストロ」。
J.S.バッハと、W.A.モーツァルトを取り上げています。

J.S.バッハの活動拠点をもとに時代を分け、そのときに作られた代表曲を挙げています。

クローズ・アップ・マエストロ

J.S. バッハ

鑑賞のポイント

- 作曲家の生涯ととりながら音楽を味わおう。
- さまざまなジャンルの音楽に触れ、それぞれの作品の特徴を味わおう。

マエストロの履歴書

氏名	ヨハン・ゼバスティアン・バッハ Johann Sebastian Bach
出身国	ドイツ(当時は神聖ローマ帝国)
生没年月日	1685年3月28日[ザイクツェ]～1750年7月28日[クプフェン] (享年65歳)

音楽学習歴

幼少時代 町音楽師をしていた父ヨハン・アマデウス・バハからヴァイオリンの手ほどきも、教会オルガン奏者としての父の兄ヨハン・クリスティアン・バハからオルガンやチェンバロの演奏も習得。聖歌隊や教会音楽の演奏も行う。聖歌隊に所属し音楽教育を受ける。また、長兄ヨハン・クリスティアン・バハからオルガン奏者としての訓練も受ける。

1694～95年 (9～10歳) 母と父を継いで、オールドマルの長兄に引き継がれ、本格的な音楽教育を受ける。この頃、ドイツの作曲家の作品を熱心に研究し、ドイツ音楽の継承者となる。

1700年 (15歳) 長兄の死を継ぎ、リネブルクの聖ヒェルム教会付属学校で校長となり、音楽やオルガン学を学ぶ。また、聖ヒェルム教会の聖歌隊員となる。この頃、北ドイツの音楽やフランスの音楽に触れる。

1705年 (20歳) ユーベックの聖マリアン教会オルガン奏者ブクステフデを師と仰ぎ、彼のオルガン演奏や作品から多大な影響を受ける。

音楽家と旅

15歳のバッハは、身を寄せていた長兄ヨハン・クリスティアン・バハの死を受け、ドイツ全土のザクセン・アンハルト州に移り住むことになる。旅は、このとき、オールドマルからおよそ300kmの距離を徒歩で移動したと伝えられている。また、20歳のときには、ブクステフデに会うためにリネブルクを訪れている。詳細は不明だが、長兄の死後、約1年ほどリネブルクに滞在していたと推定されている。また、モーツァルト(1756)は、この頃、リネブルクを訪れていると推定されている。現在では、列車で約30分、徒歩で約2時間の距離を、馬車で約1週間かかると推定される。この旅の目的は、聖歌隊に加入し音楽を学ぶことと推定されている。

J.S.バッハの作品に付けられている「BWV番号」は、ドイツの音楽学者ブルグミュラー(1801～1896)によって編纂されたBWV8作品目録(Bach Werke Verzeichnis)の略称によるものである。この目録では、バッハの作品がジャンルごとに分類されている。

音楽学習歴も掲載

139ページ バロックの音楽

オルガン演奏と作曲の基礎を築いた青年時代

1703年、18歳でアルシシュタット新教会のオルガン奏者となったバッハは、当時の最新式のオルガンを手に入れた幸運に恵まれる。オルガンの演奏法やオルガン曲の研究に打ち込んだ。20歳のときには、リネブルクの聖マリアン教会のオルガン奏者を務めていたディートリヒ・ブクステフデを師と仰ぎ、彼の演奏や作品から多大な影響を受けた。07年には、ミュールハウゼンのブクステフデ教会のオルガン奏者の職に就き、同年、マリアンベルクと結婚し7人の子をもうける。このうち長男ゲオルク・フリードリヒと次男カール・フィリップ・エマヌエルは後に有名な音楽家となった。8年、ザクセン・ワイマル公国の宮廷オルガン奏者兼音楽教師となり、数多くのオルガン作品を作曲した。

トッカータとフーガ ニ短調 BWV 11

バッハのオルガン曲の中でも特に有名なフーガのフーガが色濃くみられることから、17と考えられる。自由曲形式のフーガで独逸的に行われ、独逸を穿つ技巧的な和声的進行と特徴的な楽器的な表現に演奏される。次に「F13」が展開され、最後に再びトッカータ部分で結ぶ。なお、この作品は、自筆楽譜がないことなどから、他の作曲家によるものといわれている。

フーガト短調 BWV 578

BWV578と呼ばれる作品としてあり、

器楽作品の創作力を生かした

1717年、(バッハはアルムホルツェンツェンシュタットに赴任したが、中断を経て、23年のマリア・エリザベト訪問の翌日に改作されたものである。四声部の独奏、混声合唱、管弦楽による、2部構成、全10曲。このカンタータは、ザクセン・ワイマル宮廷楽団楽長時代の1716年に書き下されたが、中断を経て、23年のマリア・エリザベト訪問の翌日に改作されたものである。四声部の独奏、混声合唱、管弦楽による、2部構成、全10曲。このカンタータは、3通称のことで知られている。

このカンタータは、ザクセン・ワイマル宮廷楽団楽長時代の1716年に書き下されたが、中断を経て、23年のマリア・エリザベト訪問の翌日に改作されたものである。四声部の独奏、混声合唱、管弦楽による、2部構成、全10曲。このカンタータは、3通称のことで知られている。

「ブランデンブルク協奏曲」第3番

数多くの名手をもつた優れた協奏曲が、ついに実現することになった。ヨロバ各地で響く活躍し、高い名声を得ていたバッハはこれに賛同し、バッハは生涯にわたって高く評価されている。この作品は、作曲家としてはあまり知られていなかった。彼の死後、その音楽は時代とともに忘れられていった。

1802年にドイツの音楽学者ヨハン・ニコラウス・フォルケルがバッハの伝記を執筆した。その後、9年にライプツィヒで出版されたメンデルスゾーンによってこの作品が再評価され、ベルリンで「(マタイ受難曲)の再演」に、その偉大さが広く知られるようになった。

「マタイ受難曲」BWV 244から第1部 1曲 導入の合唱(来たれ、娘たちよ、われとともに唄け)

「受難曲」は、新約聖書に記されたイエスの4つの福音書に基いてイエスの受難物語に基づいて作曲された大規模な声楽作品である。バッハは生涯に5つの受難曲を作曲したとされているが、今日完全形で残っているのは「マタイ受難曲」と「ヨハネ受難曲」の2曲のみである。

「マタイ受難曲」の作曲は不詳だが、初演は1727年に聖トーマス教会で行われたとされており、後に改訂されて今日演奏される最終稿に至ったのが36年後とされている。導入の合唱は、2組の管弦楽と混声合唱の対峙形式でイエスの受難が歌われ、そこにソプラノ・リコーンが加わる。

「無伴奏チェロ組曲」第1番 長調 BWV 1007から第1曲(プレリュード)

バロック時代の作曲で、20世紀最大のチェロ奏者パブロ・カザルスによって再発見され広く演奏されている。

▽ 発声の基本と実践

基本的な発声法を身に付けるための最適な教材《Ave Maria》を扱ったこのページは、1年を通して活用することができます。



10

Ave Maria
作曲者不詳/内藤洋三 編

♩ 76-80

11

作曲者はイタリアのジョリオ・カッチーニ(1545~1618)といわれているが、今ではロシアのデュー・リョットと作曲者のクラディエール・ワグネル(1925~1973)であるという説が有力である。

VOICE TRAINING

ヴォイス・トレーニング

◎ 歌うときに、まず気を付けたことは姿勢と呼吸。

日常生活の中では、肩が内側に入り、前かがみの姿勢になっていることも多い。このような姿勢では息を十分に吸うことができないので、歌うときには胸を開き、おへその下辺りに少し力を入れた状態で立つ(座る)とよい。また、上半身が硬いと息が入りにくいで、軽く体を動かして柔らかくしよう。さらに、息をコントロールしながら吐き出すことも大切だ。



◎ 息をコントロールして歌うためには、リップロール*や母音唱で長く息を出す練習が効果的。

息の強さや長さが一定に保たれていないと、音のぼけている間に音高が不安定になったり声が揺れたりしてしまう。まずはリップロールやOやUの母音唱で自分の息の強さや長さを確認してみよう。また、母音唱の際は唇や顎に力を入れすぎないようにしよう。

*リップロール：唇を合わせた状態で息を吐き、唇をブルブルと振動させること。リップトリルともいう。

息の強さや長さが不安定な場合は、①姿勢が前かがみになっていないか、②息を十分に吸えているか、③息を吐く際に、胸が閉じたりおへその下辺りの力が抜けたりしていないかを確認するとよい。

◎ 声をよく響かせるためには、ハミングで歌う練習が効果的。

ハミングで歌うと、鼻の一部分がビリビリと震える。そこを意識して響きの感覚をつかむことができれば、下の譜例のようにまず“Hum.”で響きを確認し、次は“Ma”の発音に移行する練習をするとうい。下行するところではおなかの支えをしっかりと保ち、最初の音の響きのまま歌うようにしよう。

《Ave Maria》を歌う際に

- Q1 長いフレーズをたっぷりと歌うためには、どのようなことに気を付けるとういですか?

A1 息を吐く際に、体を外側へ広げていくイメージをもちましょう。

息を吐き出す際は、体がしぼんでいくようにイメージしがちです。しかしこれでは呼吸が安定せず、長くのびている音がだんだん弱くなり、音高も下がってしまいます。逆に、体を外側へ広げていくイメージをもつと、息の流れを安定させることができます。特に音高が下がっていくところは、おなかの支えをしっかりと保ち、胸も閉じないようにしましょう。
- Q2 上行して跳躍する音(10小節目など)をレガートで歌うためには、どのようなことに気を付けるとういですか?

A2 音が変わるたびに息の流れが止まらないよう、フレーズ全体を一つのまとまりと捉えましょう。

跳躍する音の間に音階の構成音を添えて母音で滑らかに歌った後、その音だけを歌う練習を繰り返すとよいでしょう。
- Q3 25小節目からの高音をきれいに歌うためには、どのようなことに気を付けるとういですか?

A3 最高音で力まないように、フレーズの始まりから最高音を意識するようにしましょう。

【練習1】のように、中音域から高音域へと徐々に音階を広げる練習をしましょう。このとき最高音のぼけている音ではなく支えがなくなってしまうことがありません。体を外側へ広げていくイメージをもって最後までしっかりと支えようようにしましょう。その後の【練習2】のように、響きを保ちながら歌う練習をするとういでしょう。

《Ave Maria》を歌う際のポイントをQ&A形式で掲載

(P.10・11)

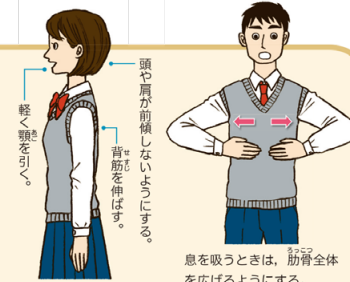
「ヴォイス・トレーニング」は、《Ave Maria》だけでなく、他の歌唱教材にも生かすことができます。

VOICE TRAINING

ヴォイス・トレーニング

◎ 歌うときに、まず気を付けたことは姿勢と呼吸。

日常生活の中では、肩が内側に入り、前かがみの姿勢になっていることも多い。このような姿勢では息を十分に吸うことができないので、歌うときには胸を開き、おへその下辺りに少し力を入れた状態で立つ(座る)とよい。また、上半身が硬いと息が入りにくいで、軽く体を動かして柔らかくしよう。さらに、息をコントロールしながら吐き出すことも大切だ。



◎ 息をコントロールして歌うためには、リップロール*や母音唱で長く息を出す練習が効果的。

息の強さや長さが一定に保たれていないと、音のぼけている間に音高が不安定になったり声が揺れたりしてしまう。まずはリップロールやOやUの母音唱で自分の息の強さや長さを確認してみよう。また、母音唱の際は唇や顎に力を入れすぎないようにしよう。

*リップロール：唇を合わせた状態で息を吐き、唇をブルブルと振動させること。リップトリルともいう。

息の強さや長さが不安定な場合は、①姿勢が前かがみになっていないか、②息を十分に吸えているか、③息を吐く際に、胸が閉じたりおへその下辺りの力が抜けたりしていないかを確認するとよい。

◎ 声をよく響かせるためには、ハミングで歌う練習が効果的。

ハミングで歌うと、鼻の一部分がビリビリと震える。そこを意識して響きの感覚をつかむことができれば、下の譜例のようにまず“Hum.”で響きを確認し、次は“Ma”の発音に移行する練習をするとうい。下行するところではおなかの支えをしっかりと保ち、最初の音の響きのまま歌うようにしよう。



「主体的・対話的で深い学び」を実現し、思考力、判断力、表現力等を育てます。

▽ 個々の創造性を育むとともに、グループ活動によって協働しながら主体的に取り組むことができる教材

ボディー・パーカッションは楽器を用いないため、無理なく取り組むことができます。

強弱や音色の工夫について説明

30

ブリタス ロック
Plymouth Rock
マレイ・ホーリフ 作曲
In a Rock style ♩=80-88

(P.30-31)

31

ボディー・パーカッションを楽しもう

(Plymouth Rock)は手拍子と足踏みだけで演奏する曲である。パートの役割を考えながら、手拍子や足踏みを工夫して演奏しよう。

- ①全員が1と目の両方のパートを演奏できるようになったらグループに分かれ、どのように工夫したらより楽しいアンサンブルになるのかアイデアを出し合って練習しよう。
- ②グループ練習をするときには、A-Eの中から部分的に取り出して合わせるなど、練習方法を工夫しよう。
- ③試奏しながらグループで話し合っ、よりよい演奏を目指そう。
- ④各グループの表現の工夫に注目しながら、互いのアンサンブルを聴き合おう。

演奏の工夫

- ① 強弱記号の書かれていない部分についても強弱の変化を考える。
- ② 強弱に合わせて手拍子の打ち方や足踏みの仕方を変える。
- ③ 各パートのリズムの特徴を感じ取り、目立たせて演奏するリズムと、逆に目立たせないように演奏するリズムを決め、抑揚を付ける。
- ④ 手拍子や足踏み以外のボディー・パーカッション(指鳴らしや膝打ちなど)も取り入れる。
- ⑤ (Plymouth Rock)に合うような曲の音源を持ち寄り、それに合わせて演奏する。

▽ グループ活動に効果的なアンサンブル教材が豊富

動画サイトで話題となり、2012年公開のミュージカル映画にも使われた『Cups』のパフォーマンスをもとにした教材を取り上げています。

32

Clap, Tap with CUPS!

身近にあるコップ(紙製もしくはプラスチック製)を使い、手拍子や机を打つ音を組み合わせて、リズムを演奏しよう。コップを机に置く際、飲み口側と底側のどちらを下にするかによって音は変わる。また、底側であっても、全体を机に付けるか、一部分を付けるかによって音が変わる。自分たちのイメージする音色を目指して、何度も試しながら音の出し方を工夫しよう。

STEP 1 動作を覚えよう

下の5つの動作を覚えよう。

- 手拍子(パン、パ)
- 片手で机を打つ(トント)
- コップを持ち上げる(スツ、ドゥ)
- コップで机を打つ(カン、マン、カッ、ウツ)
- 手でコップを打つ(ボツ、ウツ)

※1: どちらも軽く机をこすって音を出し、パンはコップを逆手に持つ。
※2: カンは飲み口側、マンは底側を、コップ全体で強く打つ。カッ、ウツは軽く打って得ませ。

STEP 2 リズムを演奏しよう

コップを伏せた状態にセットする。演奏する前にリズムを読んで覚えておくとよい。

(P.32-33)

33

STEP 3 グループで演奏しよう

4~8人くらいのグループを作り、輪になって演奏しよう。その際、最後の「カン」のとき、右隣の人の前にコップを置くこと、コップを回しながら演奏することができる。また、「パン」のときは手拍子を打つ代わりに同隣の人と手を打ち合わせるなど、いろいろなアイデアを出し合って自分たちのパフォーマンスを考えよう。

右隣の人の前にコップを置く
同隣の人と手を打ち合わせる

オリジナルのリズムをつくらう

いくつかの短いリズム・パターンをつくり、それらをつなぎ合わせてもよい。リズム・パターンをつくる際は、音を出しながら組み合わせを考え、文字の太さや大きさなどで、音の長さや音色の違いが分かるように記譜の仕方を工夫しよう。



音色を工夫して楽しむ
キーボード・アンサンブルも掲載

42

ミッション：インポッシブルのテーマ

(テレビドラマ「スパイ大戦」から)

クラフ・フラン 作曲/音舟 編曲
♩=168くらい

シンバル
クラバス
トランペット
トロンボーン

※ クローズド奏法
※ オープン奏法

(P.42-43)

▽グループの会話を参考に《Caro mio ben》を分析 「主体的・対話的で深い学び」の本質に触れることができます。

表現豊かな演奏へつなげる 生徒どうしの会話

28

Caro mio ben 大解剖!

下に示したグループの会話を参考に、《Caro mio ben》の旋律や曲の構成などについて、グループで分析しよう。そして、その内容をもちに、より表現豊かな演奏による工夫しよう。

Point ① 旋律が3拍目から始まる。
この曲では、旋律が「1, 2, 3, 4」ではなく「3, 4, 1, 2」という拍のまとまりから始まっています。
1拍目が早く始まり始めると、旋律が次は2拍目がついていく感じになります。

Point ② 初めて音が跳躍する。
同じような下行形が2回続いた後、3回目の終わりまで音が跳躍してきます。
リズムも付点音符では来ています。
"senza di te (あなたがいなくて)"という歌詞が大切に歌われている感じがします。

Point ③ 旋律がピアノで演奏される。
"Caro mio ben"と歌われる旋律をピアノで演奏しています。
続く部分で1回目は"credimi almen"と歌われていた旋律が、"Caro mio ben"と歌われていきます。

Point ④ 連続して音が跳躍する。
この部分では音が大きく跳躍していて、正しく歌うのはとても難しいです。
今までは、順番に進行だったので、この部分が多いと立ち止まる感じがします。

Point ⑤ 旋律の雰囲気に変化する。
ここが断絶しています。
リズムも上行形になっていきます。
ピアノ伴奏の形も変化してきます。

Point ⑥ 歌の旋律に「f」が現れる。
この「f」によって、"Cessa (やめてくれ)"という思いが強く表現されています。
アクセントもつけて、より強調されているようです。
でも、10, 23小節目の"senza di te languisce il cor"とリズムを用いているので、曲として一体感があります。

楽典 150ページ

29

Point ④ 連続して音が跳躍する。
この部分では音が大きく跳躍していて、正しく歌うのはとても難しいです。
今までは、順番に進行だったので、この部分が多いと立ち止まる感じがします。

Point ⑤ 旋律の雰囲気に変化する。
ここが断絶しています。
リズムも上行形になっていきます。
ピアノ伴奏の形も変化してきます。

Point ⑥ 歌の旋律に「f」が現れる。
この「f」によって、"Cessa (やめてくれ)"という思いが強く表現されています。
アクセントもつけて、より強調されているようです。
でも、10, 23小節目の"senza di te languisce il cor"とリズムを用いているので、曲として一体感があります。

Point ⑦ 冒頭の旋律が再現される。
冒頭の旋律がpppでリフレンドしながらいよいよ再現されます。
pppで歌うための工夫はたくさんあります。
ピアノ伴奏は付点音符が並ぶので、アクセントが効いて拍がつかない場合があります。

●この曲のタイトルでもある"Caro mio ben" (この部分)という歌詞は、曲中で4回歌われます。それぞれの部分の違いを確認し、どのように表現したらよいかを考えよう。

楽典 150ページ

(P.28・29)

▶表現方法について 深く考えることができる 指揮の実習

指揮の基本的な動きを身に付ける
ことができます。

指揮の振り方を 丁寧に解説

(P.51)

51

指揮にチャレンジ!

指揮者は、合唱や合奏をまとめるうえで大切な存在である。演奏の始まりや終わりのタイミングをそろえたり、テンポを指示したりするだけでなく、演奏者に音楽的なニュアンスを伝えてアンサンブルの統一を図るという重要な役割も担っている。

以下のExerciseを参考に、より見やすく、演奏者に指示が伝わりやすい指揮を目指そう。

Exercise 1

指揮するときの正しい姿勢と基本的な動きを身に付けよう。

①両手を伸ばして立ち、上半身を緩め、肩と腕を伸ばすようにしよう。
②右腕の肘から指先までが一直線になるように伸ばしながら、右手が顔の正面にくる位置で構える。
③メトロノームに合わせて1拍子を行って、ボールが地面に落下して腕を振り下ろすイメージしながら、腕を振り下ろして振り上げる。その際、打点(肘の位置)がおなかの前辺りにくるようにする。これは指揮の最も基本と

●基本的な振り方
なるテクニックで、「扇」とも呼ばれる。メトロノームのテンポ設定を変えて、さまざまなテンポで練習しよう。
①打点から振り上げる瞬間をいって、肩や腕に力が入らないように注意しよう。振り下ろすときは自然に加速し、振り上がる時は自然に減速しよう。
②感覚をつかんだら、メトロノームを使わずに1拍子を行って、③感覚を前にもう一度確認し、それをキープしよう。
④同様、2拍子、3拍子、4拍子で練習しよう。
⑤各拍の打点が全て同じ位置になるように練習しよう。

●振り下ろした際の打点位置
2拍子 3拍子 4拍子

Exercise 2

演奏する曲の雰囲気合った指揮ができるよう、さまざまな振り方を身に付けよう。まずはメトロノームに合わせて2拍子、3拍子、4拍子で練習し、感覚をつかんだらメトロノームを使わずに練習してみよう。

①少したとたきや遅く少しいき指揮するときは、腕の加速や減速をできるだけなく、打点を明確に示さず振ることがある。この振り方は「平均運動」とも呼ばれる。

2拍子 3拍子 4拍子

①打点の位置が左右に広がっても、打点の高さは変わらないようにしよう。また、打点を明確に示さなくても、しっかりと腕を振り下ろすようにしよう。
②しづかに腕を振り下ろすときは、腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

③腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

④腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑤腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑥腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑦腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑧腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑨腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑩腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑪腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑫腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑬腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑭腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑮腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑯腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑰腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑱腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑲腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

⑳腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉑腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉒腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉓腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉔腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉕腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉖腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉗腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉘腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉙腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉚腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉛腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉜腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉝腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉞腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㉟腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊱腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊲腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊳腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊴腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊵腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊶腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊷腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊸腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊹腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊺腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊻腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊼腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊽腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊾腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

㊿腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。腕の肘から指先までが一直線になるように振り下ろす。

Exercise 3 52ページ

次のページでは、
《夏の思い出》を用いて
実践的に学びます。

▽ 生徒の興味・関心や意欲を高めるような紙面の工夫

ジャズを学ぶ際のさまざまな観点を提示しています。

What is JAZZ?

ジャズは、19世紀末から20世紀初頭、アメリカのニューオーリンズを拠点に生まれた音楽である。誕生から今日に至るまで、さまざまなスタイルを生み出しながら発展してきた。ジャズの魅力としては「独特なコードの響き」や「即興による自由な演奏」などが挙げられる。

ここでは、モダン・ジャズのスタイルを例に、プレイヤー(奏者)がどのように音楽を作り上げていくのかを知り、響きや雰囲気を感じよう。

103

● ジャズの特徴 (ジャズって自由?)

- シンプルな楽譜
テーマとなるメロディーやコード・ネームだけが書かれた「リード・シート」を使うことが多い。
- テンションコード
リード・シートに書かれているコード・ネームに、テンション・ノートと呼ばれる、ルート(根音)から数えて9、11、13番目などの音を加え、緊張感のある響きにする。
Cm7のテンションコードの例(「J」の音がテンション・ノート)
- リズム
4分の4拍子の場合、2拍目と4拍目にアクセントを置くオフ・ビート(アフター・ビート)と、♪♪の響きに揺れるようなリズムで演奏することが多い。
- 即興演奏
ジャズでは、メロディーだけでなくコードやリズムにもプレイヤーの独創性や表現力が反映される。

● ジャズで使われるリード・シートの例(「枯葉」)(J.コズマ作曲)

● ジャズの歴史

1890年代 ジャズの誕生	主にアフリカ音楽のリズムやメロディと、西洋音楽の楽器やハーモニーの要素が融合して生まれた。
1900～40年代 オーールド・ジャズの時代	グループでの即興演奏を特徴とする「ニューオーリンズ・ジャズ」の後、ビッグバンドによる即興演奏の要素がダンス音楽の「スウィング・ジャズ」などが主流となった。
1940～60年代 モダン・ジャズの時代	ジャズの黄金期と呼ばれ、ダンス音楽から鑑賞する音楽へと変遷していく。即興的なメロディーや細分化されたリズム、拡張されたコードを特徴とする「ビバップ」、穏やかなリズムや楽曲の統一感などの要素を重視した「クール・ジャズ」、洗練された即興演奏でビバップを発展させた「ハード・ビバップ」、旋法(モード)を用いて従来のコード進行の規則から解放された「モード・ジャズ」などが生まれ、独創的な即興演奏によってジャズの可能性が広がった。
1960～80年代 フュージョンの誕生	コード進行にとられない自由な演奏で自己表現を強調する「フリー・ジャズ」、ロックやソウルミュージックとの融合が図られた「フュージョン」など、スタイルが多様化した。
1980～2000年代以降 さらなる多様化の時代	フュージョン全盛の後、60年代までのスタイルを取り入れて再構成したり、ヒップ・ホップと融合したりするなど、今も新しい道をたどっている。

● 標準的な演奏の構成例

スタンダード・ナンバー^①の《枯葉》を聴き比べよう	<p>《枯葉》は、フランスで活躍した作曲家ジョゼフ・コズマ(1905～1969)が1945年に作曲し、翌年、映画の挿入歌としてイヴ・モンタン(1921～1991)によって歌われたシャンソン^②である。後に曲の後半部分に英語歌詞が付けられ、その部分がジャズのテーマとして用いられるようになった。</p> <p>103ページに紹介するアルバムから、原曲のシャンソン(①)、クインテット^③(②)、ピアノトリオ(③)による《枯葉》を聴き比べよう。</p> <p>※1 スタンダード・ナンバー: 広く知られ、時代や流行に左右されず幅広い人気をもつ曲。 ※2 シャンソン: フランスのポピュラー・ソングで、人生の喜怒哀楽を歌うものが多い。 ※3 クインテット: 五重奏。</p>
--	--

4ページ Drums!

Rock History 104ページ

バンド・アンサンブルに挑戦 106ページ

コード・ネーム 154ページ

▽ 学習をサポートするQRコード

実際に目や耳で確認することで、知識を確かなものにします。



指揮の振り方を動画で
分かりやすく解説



ピアノ・トリオによる《枯葉》の演奏
ジャズの演奏を映像で鑑賞



歌唱

多感な時期にある生徒が楽しく幅広く音楽を学習することができるよう教材を精選し、提示の仕方を工夫しながら、ポピュラー・ソング、唱歌、芸術歌曲、合唱曲、ミュージカル・ナンバー、オペラ・アリアなどを取りそろえました。特に、長い間歌い継がれ、親しまれてきた曲を豊富に収録するとともに、我が国の伝統的な歌唱も学習できるよう、能の謡を取り上げました。

ポピュラー・ソング

広く親しまれている《翼をください》《見上げてごらん夜の星を》《Memory》の他、生徒の心に響くポピュラー・ソングを新たに5曲加えました。

現在までの推移を10年ごとに区切り、それぞれの時代を彩った歌を1曲ずつ選びました。

2010年代 《Lemon》(P.12・13)

2000年代 《若者のすべて》(P.16・17)

1990年代 《負けないうで》(P.15)

1980年代 《クリスマス・イブ》(P.115)

1970年代 《翼をください》(P.14)

1960年代

《見上げてごらん夜の星を》(P.64・65)

1940年代 《東京ブギウギ》(P.114)

112 100年を振り返る歌謡曲の歴史をたどる。音楽の歴史をたどる。音楽の歴史をたどる。

歌謡曲からJ-POPへの100年

「歌謡曲」という言葉が日本のポピュラー(大衆)音楽の呼称として用いられるようになったのは、ラジオ放送が始まった1925年以降のことである。そして、「J-POP」という言葉が90年前後にラジオ放送局から生み出される。ここでは、日本のポピュラー音楽が歌謡曲からJ-POPに推移していく100年の間にどのように制作されてきたかを、それぞれの時代を彩る作品とともに、たどってみよう。

●歌謡曲やJ-POPの制作方法は、大きく次の2つに分ける。

作曲、作詞、パフォーマンス(歌唱や演奏)などを、それぞれのプロフェッショナルが担当し、分業で制作する。

作曲、作詞、パフォーマンスなどを、同一のアーティストやバンドのメンバーが行う。

— プロフェッショナルたちによる作品 —

1925～60年 (大正14～昭和35年)

歌謡曲の多くはレコード会社が企画し、戦前から戦後しばらくは、映画と関連付けて制作されることが多かった。クラシック音楽やジャズの知識をもつレコード会社専属の作曲家が曲を作り、その作曲家と師弟関係にある歌手が歌うという構図も多く見受けられた。

- 中山晋平/《東京行進曲》佐藤千夜子
- 古賀政男/《影を慕いて》藤山一郎
- 芳城自正/《悲しき口笛》美空ひばり
- 服部良一/《東京ブギウギ》(→P.114) 笠置シズ子

作曲者/(曲名) 歌手またはグループ名

1925年 中山晋平 《東京行進曲》 佐藤千夜子 (東京ブギウギ)

1950年 服部良一 《東京ブギウギ》 笠置シズ子 (悲しき口笛)

(P.112-113)

「歌謡曲からJ-POPへの100年」では、歌謡曲からJ-POPに推移していく100年間の、楽曲の制作方法に着目

日本の歌曲

各曲に縦書き歌詞と伴奏譜を掲載しています。

掲載曲：《小さな空》武満徹(P.22・23) / 《むこうむこう》中田喜直(P.48) / 《この道》山田耕筰(P.50)

合唱曲、ヴォイス・アンサンブル

三宅悠太氏の《ぼくは ぼく》(混三/伴奏付き)に加え、木下牧子氏の《おながく》(混四ア・カペラ)、佐井孝彰氏の《言わない》(同三/伴奏付き)を新たに収録しました。その他、取り組みやすいア・カペラの入門曲やミュージカル・ナンバーも取りそろえました。

本書のための書き下ろし作品

122 歌謡曲と曲の両方を理解して、楽譜をたどる。楽譜をたどる。楽譜をたどる。

言わない

さくらももこ 作詞/佐井孝彰 作曲

あなたは言わない。
言わないことが
よく伝わってくる。
それは
わたしも言わないこと
たぶん通じているから
わたしは、それが
言いたいようなことだから
知っているし
あなたもわかっていて。

♪=80 ♩

mp

あなたは い わない あなたは い わない い わない

(P.122～124)

伴奏付きで、縦書き歌詞も掲載

●ミュージカル・ナンバー

《美女と野獣》(P.70-71)

●ヴォイス・アンサンブル

《サザエさん》(P.110-111)

●ア・カペラの入門曲

《懐かしきケンタッキーの我が家》(P.121)

心の歌

歌い継いでいきたい日本の歌を「心の歌」と題し、四季折々の美しい自然が感じられる曲を取りそろえました。斉唱、同声合唱、混声合唱など、さまざまな曲態で楽しめます。各曲とも縦書き歌詞を掲載しています。

掲載曲：《花》(P.21) / 《夏の思い出》(P.52・53) / 《虫のこえ》(P.85) / 《冬景色》(P.118) / 《故郷》(P.119)

日本の伝統的な歌謡

日本の伝統音楽への理解を深めることができるよう、能の謡を取り上げました。

掲載曲：《高砂》(P.80) / 《羽衣》(P.81)

ヨコフ吟で謡おう - 能(羽衣)から -

【あらすじ】 鶴河原(静御前)と三木の松平の住む源氏の首領(ワキ)は、松の木に落ちた美しい衣を見つけ、それを手に入れようとす。そこへ天人(シテ)が現れ、「衣を盗むと天界に連れていかれる」と警告する。その様子を見た白狐は、「衣を盗む代わりに天界の舞を見たい」と頼む。天人は舞を見せると、三木の松平から盗んだ衣を奪い上げ、天界へ連れていく。ここで取り上げられる舞は、天人が白狐に舞を教わった天舞と見られる。天人は白狐に舞を教わった天舞と見られる。

●この舞踏部分は、七五調の舞交になっており、「キリ」と呼ばれる曲の構成で、「謡」によって白拍子で歌われる。音調は、後果、風流、退屈、哀愁などの趣を表現する場面で見られる。



(P.81)

謡い方のイメージを表した譜

●柔らかな息遣いで抑揚を付けて謡おう。

《謡い方のイメージを表した譜》 櫻井寛 楽譜構成

(拍)	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	
(上音のキ)																	
(上音)	あ ず う ま あ ア そ び の か ず か ず に																
(上音のキ)	お な も いろ び い と は																
(上音)	そ の オ つ き の																
(上音のキ)	お や そ ら に ま た																
(上音)	ま ん が あ ん し ん に よ																
(上音)	お の か げ と																
(上音のキ)	あ り																
(上音)	ご が あ ん ん ま こ く う ど																
(中音のキ)	え あ ん																
(中音)	じ ゃ お じ ゅ																

外国の歌曲

イタリア語とドイツ語の歌曲は定番曲を取りそろえました。日本語詞と原語歌詞の他、原語歌詞の意味も掲載しています。フランス語はポピュラー・ソングを取り上げました。

●イタリア語の歌曲

掲載曲：《'O sole mio》(P.25)
《Caro mio ben》(P.26・27)

●ドイツ語の歌曲

掲載曲：《Heidenröslein》シュューベルト (P.56)
《Heidenröslein》ヴェルナー (P.57)
《Ich liebe dich》(P.58・59)

●フランス語のポピュラー・ソング

掲載曲：《オー・シャンゼリゼ》(P.76・77)

ドイツ語やフランス語についても同様に、発音の基本を解説

音楽用語とイタリア語についてのコラムも掲載

24 **イタリア語の歌を歌おう**

“Buongiorno! Come state?”これはイタリア語で「こんにちは！皆さんお元気ですか？」という意味である。イタリア語は明るくリズム感がよく発音し易い。発音はほぼローマ字読みでよいが、異なる部分がある。下の表を参考に歌詞を発音して、曲の雰囲気から歌の感じを捉え、さらに発音などを聴いて

イタリア語の歌を歌おう。その際、日本語とイタリア語の両方で歌って、それぞれの歌のリズムやアクセントなどと旋律との関わりについても留意しよう。

ca	カ	chi	キ	ca	カ	che	ケ	co	コ
cia	チア	ci	チ	cia	チア	ce	チェ	cio	チオ
ga	ガ	gi	ギ	ga	ガ	gi	ギ	go	ゴ
gia	ギア	gi	ギ	gi	ギ	gi	ギ	gi	ギ
giu	ギウ	gi	ギ	giu	ギウ	gi	ギ	giu	ギウ
gu	グ	gu	グ	gu	グ	gu	グ	gu	グ
ha	ア	ha	ア	ha	ア	ha	ア	ha	ア
qua	クワ	qui	クイ	qua	クワ	qui	クイ	qua	クワ
qua	クワ	qua	クワ	qua	クワ	qua	クワ	qua	クワ
sa	サ	sa	サ	sa	サ	sa	サ	sa	サ
za	ザ	za	ザ	za	ザ	za	ザ	za	ザ

- 1-上の歯茎に舌先を当てる。
- 「-」を音化する。ただし、sの前後が母音の場合はほとんどない。
- cの音子音は, d, g, l, m, n, v の前後に「j」と置ける。また、母音の間に「j」を挿入した場合は「ja」と置けることが多い。
- spagnolo(スペイン), caravana(カリス), musica(音楽), chiesa(教会)
- 単語の中で同じ子音が2つ続くときと発音のようになる。ただし, m や n の場合は「j」となる。
- nosso(赤い), latte(牛乳), mamma(お母さん)

イタリア語の歌詞は、ほとんどが韻文で作られている。そのため、単語一つ一つを発音するときと歌詞を韻文するときでは、アクセントが異なることもある。

※訳文・単語の発音、母音と子音の配列などに一定の規則がある。

●音楽用語とイタリア語

楽譜にさまざまな記号や用語が書き記されるようになったのは、17世紀のイタリアにおいてである。この時代、音楽の中心地はイタリアであった。そのため記号や用語にはイタリア語が用いられ、形容詞や動詞などから派生した単語で示されることが多い。例として、強弱記号 *Allegro* (速く) は、イタリア語で「来た(牛乳)」、*Andante* (ゆっくり) は「歩いた」などである。

音楽用語や記号	音楽用語の意味	イタリア語本来の意味	日常会話で使われる方
<i>p</i> (<i>piano</i>)	弱く	静く、静かに、ゆっくり	<i>Parlate piano</i> : 静かに話さず聞いて話さない
<i>f</i> (<i>forte</i>)	強く	強く、激しく、おどろきに	<i>Più forte</i> : 激しく雨が降る
<i>allegro</i>	速く	陽気な、快活な	<i>bambino allegro</i> : 明るい元気な子ども
<i>andante</i>	ゆっくり歩くような速さで	行く、動く、進行するなどを意味する動詞 <i>andare</i> の現在分詞	<i>mese andante</i> : 今月
<i>legato</i>	音の繋がりを切れないように	つなぐ、結ぶ、縛るなどを意味する動詞 <i>legare</i> の過去分詞	<i>bambino legato alla mamma</i> : ママっ子
<i>staccato</i>	その音を短く切って	はなす、別す、離すなどを意味する動詞 <i>staccare</i> の過去分詞	<i>quattro staccato</i> : はなされた四輪
<i>dolce</i>	甘く柔らかく	甘く、柔らかく、優しいなど (名前やお菓子も意味する)	<i>Maria dolce</i> : マリアは優しいほほ笑み

(P.24)

器楽

楽器や奏法の説明と、実際に演奏する曲の楽譜を見開きに配置し、常に確認しながら演奏できるよう紙面構成を工夫しました。また、ボディーパーカッション、チャイムなど、グループ活動で協働しながら学習を進めることのできる教材や、さまざまな楽器編成によるアンサンブル教材など、バラエティー豊かな曲を取りそろえました。

ウクレレ

コード演奏やストローク奏法を無理なく楽しめるウクレレの教材を新たに掲載しました。楽器や奏法についても詳細に説明しています。

掲載曲：《Michael, Row The Boat Ashore》(P.35) / 《真珠貝の歌》(P.35)

楽器や奏法の説明と演奏する曲の楽譜を見開きに配置

Ukulele
ウクレレ

ウクレレとは、ハワイ語で「弾ねる器」を意味する。19世紀末、ポルトガルからの移民によってギターに似た小型の4弦の楽器が持ち込まれ、それがハワイで定着したものとされる。

各部の名称
ウクレレには、大きさによってソプラノ・ウクレレ、コンサート・ウクレレ、テナール・ウクレレ、バリトン・ウクレレなどさまざまな種類があり、音色も異なる。一般的にウクレレといえば、ソプラノ・ウクレレを指す。



姿勢と構え方

椅子に深く腰掛けて背筋を伸ばす。
ボディを右肩の内側と胸の前で挟むように持つ。
右手の人さし指は、爪の側面を弦に当てる。

ヘッドが胸の辺りにくるように構え、ネック角を少し前に出す。
正って演奏する場合は同じように構える。

裏側から見たところ
ヘッドを左手の人さし指の腹に当てて構える。
左手で弦を押さえるときは、指を立ててフレットのすぐ近くを押さえる。

チューニング

チューナーを使って各開放弦の音を合わせる方法の他、まず第1弦の開放弦の音をピアノで合わせ、その音を基準に残りの弦を順に合わせていく方法などもある。いずれの場合も、バグを回して音高を調節する。なお、第4弦の音を1オクターブ低く調節する場合もある。



ダイヤグラム

ダイヤグラムは、ウクレレの弦とフレットを図式化した押さえる位置を分かりやすく示したもので、横の線がフレット、左端の二重線がネックを表している。●は押さえる位置、その中の文字は左手の指を示している。実際にウクレレを構えたときとは上下を逆に感じることがあるが、図の上が第1弦、下が第4弦なので間違えないように注意しよう。

ダイヤグラムの例 (Cコード)



押さえる位置と左手の指
第1弦 第2弦 第3弦 第4弦
フレット番号
指を伸ばせる左手の人さし指 中・中指 薬指 小指

ギター 36ページ

ストローク奏法で伴奏しよう

STEP 1 《Michael, Row The Boat Ashore》を歌いながら、ストローク奏法で伴奏しよう。「ストローク」とは、左手でコードを押さえ、右手の人さし指でリズムを刻む奏法である。できるだけ4本の弦が同時に鳴るように、第4弦から第1弦に向かって手首を支点に振り下ろして弾く「ダウン・ストローク」で演奏しよう。

ダウン・ストローク
人さし指の爪の側面を弦に当てる。

アップ・ストローク
人さし指の爪の側面を弦に当てる。

Michael, Row The Boat Ashore (こげよ マイケル)
アフリカン・アメリカン・スピリチュアル

使用するコード
C F G

使用するリズム
↓ : ダウン・ストローク
↑ : アップ・ストローク
4分音符を示す

STEP 2 《真珠貝の歌》を「La」「Lu」などで歌いながら、ストローク奏法で伴奏しよう。まず、STEP 1で使用したリズムをダウン・ストロークで演奏し、次に第1弦から第4弦に向かって弾く「アップ・ストローク」を加えたリズムを演奏しよう。

使用するコード
G C A7 D7 G7 Cm

使用するリズム
↑ : アップ・ストローク
8分音符を示す
上記のリズムに慣れたら、♪♪♪♪でも演奏してみよう。

真珠貝の歌
ハワイ民謡

Moderato G C

7 A7 (La)や(Lu)などで歌う D7 G7 C Cm

13 G D7 G Cm G

メモ ハワイの伝統的な民謡に英語の歌詞が付けられて、(Pearly Shells) (日本では《真珠貝の歌》)として広まった。
Moderato : 中くらいの速さで

実際の演奏方法を動画で確認

(P.34-35)

ギター

3つのコードで演奏できる曲を取り上げ、ストローク奏法を学習します。また、メロディーと伴奏(和音と低音)に分かれて楽しむことのできるアンサンブル曲も掲載しました。

掲載曲：《日曜日よりの使者》(P.38-39) / 《第三の男のテーマ》(P.40)

アンサンブル

キーボード・アンサンブル用に編曲した《ミッション：インポッシブルのテーマ》を新たに掲載しました。また、ボディーパーカッションやチャイムのアンサンブルでは、演奏する際の注意点や工夫などを示し、グループで楽しみながら表現を深められるようにしています。

リコーダー

各学校や生徒の実態を考慮し、ソプラノとアルトのどちらでも演奏できる曲や、アルトの二重奏もしくはソプラノとアルトの二重奏で演奏できる曲などを収録しました。

掲載曲：《天国と地獄》(P.62) / 《C-a-f-f-e-e》(P.62) / 《グリーンスリーブス》(P.62) / 《ザナルカンドにて》(P.63)

和楽器

各学校の実態に応じてさまざまな和楽器を選択できるよう、篠笛、三線、三味線、箏の4種類を取り上げました。楽器や奏法の説明と演奏する曲の楽譜をそれぞれ見開きに配置しています。

創作

表現したいイメージを着実に作品にしていけることができるよう、具体的な例を挙げながら簡潔かつ丁寧に手順を示しました。また、歌唱や器楽の教材と関連付けることにより、取りかかりやすくなるだけでなく表現も深められるようにしています。

- ポピュラー音楽でよく用いられるコード進行をもとに、楽しみながらメロディーづくりに取り組みます。

116 **創作4** 「コード進行」をもとにメロディーをつくらう

ジャンルを問わず多くの曲の中で、順次下行するベース(低音)をもとにしたコード進行が用いられている。例えば、《負けないで》(→P.15)や《オーシャンゼリゼ》(→P.76)、《クリスマス・イブ》(→P.115)などにもこの進行がみられる。

このコード進行をもとにメロディーをつくらう。

1 《クリスマス・イブ》を見てみよう。
下の楽譜は《クリスマス・イブ》冒頭のメロディーとベースを書き出したものである。
(《クリスマス・イブ》)

ベースが順次下行している

メロディーには、主にコードの構成音が用いられているが、流れをよくするために、構成音以外の音や休符が挿入されている。また、同じリズムやメロディーを反復させることで、曲に統一感を与えていることにも気付く。

2 メロディーをつくらう。
下の譜例は、八長調でベースが順次下行するコード進行になっている。示されているコードの構成音(●を含む)を参考にして8小節のメロディーをつくらう。その際、キーボードなどを用いて、音を確認しながらつくるとよい。

手順1 まずは、最初の2小節をつくる。最初の2小節の音を選んでみよう。音の

順次下行する
ベースを使用した
創作例

手順2 音型やリズムを反復、変化させて3小節目以降もつくり、メロディーを完成させる。

例1 4分音符を中心としたリズム

1~2小節目のメロディーを、音高を変えて2回反復させる

音型を少し変化させる

(P.116・117)

- 《星に願いを》のメロディーを用いて、変奏と編曲に取り組みます。

《星に願いを》

C A7 Dm G7 G#m7 C リー・ハーライン 作曲

創作2では、キーボード・アンサンブルによる三重奏用の編曲手順を詳細に解説

【軽快でアップ・テンポな雰囲気に変化させる例】

例1 音を挿入し、音の動きを細かくする。

a b

例2 休符を挿入する。

a b

例3 付点音符やシンコペーションのリズムを用いる。

a b

(P.46)

創作1では、変奏方法の例を
分かりやすく提示

手順1 3つのパート(メロディー、ハーモニー、ベース)にふさわしい音色(楽器)を選択。
例 メロディー: トランペット、ハーモニー: ストリングス(弦楽器)、ベース: ファゴット など

手順2 ハーモニーパートをつくる。その際、コードの構成音を調べ、これをもとに構成音の配置を変えてみる。

手順3 ベースパートの音を各コードの構成音の中から1音選ぶ。ルート(根音)や、コードの特徴音(第3音など)にする。その際、キーボードで音を確認しながら、メロディーとのバランスを考えよう。

手順4 メロディーパートがより引き立つように、ハーモニーとベースのパートに音や休符を挿入して、リズムを工夫する。その際、自分が表現したいイメージと音色が合っているかどうかどうかも確認する。

作品例

2 上の手順を参考に、《星に願いを》の続きを編曲しよう。また、強弱を考えたり、スラーやテヌートなどの記号を加えたりして、表情豊かなアンサンブル作品にしよう。

3 作品ができあがったら発表し合い、意見を交換しよう。また、その意見を参考に修正を加え、よりよい作品にしよう。

コード・ネーム 154ページ | ギター/キーボード・コード表 156ページ

(P.47)

- オノマトペを用いてリズム・アンサンブルをつくり、五線譜以外の方法で記録するユニークなグループ活動に取り組みます。(P.86・87)

鑑賞

西洋音楽、日本の伝統音楽、世界の諸民族の音楽の全てにおいて「鑑賞のポイント」を示し、生徒が声や楽器の音色の特徴を感じ取ったり、音楽を形づくっている要素に着目したりすることができるようにしました。また、ジャズやロックをジャンルごとに掲載し、鑑賞と表現とを関連付けてより深く学習できるよう配慮しました。

西洋音楽

音楽を形づくっている要素の動きや表現方法の多様性を感じ取ることができる教材を精選しました。

組曲《動物の謝肉祭》(P.131)

交響曲第9番《合唱付き》から第4楽章 (P.132・133)

バレエ音楽《火の鳥》組曲(1919年版) (P.134・135)

ピアノによるさまざまな表現効果を感じ取ろう (P.136・137)

情景を描く音楽を味わおう

バレエ音楽《火の鳥》組曲 (1919年版)

1919年にピアノ4手編曲されたバレエ音楽。ロシアの舞臺でも広く上演された。種々の楽器が巧みに織り交ぜられ、音の動きもまた多彩である。種々の楽器が巧みに織り交ぜられ、音の動きもまた多彩である。

【鑑賞のポイント】

- 1. 1919年にピアノ4手編曲されたバレエ音楽。ロシアの舞臺でも広く上演された。種々の楽器が巧みに織り交ぜられ、音の動きもまた多彩である。
- 2. 種々の楽器が巧みに織り交ぜられ、音の動きもまた多彩である。

(P.134・135)

バレエ音楽《火の鳥》組曲は、各曲と物語のあらずじを結び付けることで、音楽の描く情景を容易に思い浮かべることができます。

日本の伝統音楽

それぞれの音楽の特徴を比較することができるよう、多種目の伝統音楽を取り上げました。日本音楽の流れを概観できる紙面構成になっているので、文化的・歴史的背景も学ぶことができます。

貴族社会と武家社会という対照的な時代背景の中で整えられた雅楽と能を鑑賞

日本の伝統音楽

【雅楽 舞楽(五拍子)】

【能(流石)】

(P.78・79)

総合芸術である舞楽と能の鑑賞のポイントについては、音源のみで鑑賞する場合も想定して示しています。

世界の諸民族の音楽

「声による表現」と「楽器による表現」という観点から、合わせて20種類の音楽を取り上げました。人々の美意識の多様性に目を向けることができるようになっています。

全ての音楽に写真が掲載され、参考資料としても活用できます。

世界の諸民族の音楽

【声による表現】

【楽器による表現】

● アリラン (南米)

● 先住民族の合唱 (南米)

● オルガン (南米)

● アーグーズ (南米)

● デル (南米)

● スイットの囃歌 (南米)

● 京畿道アリアン (韓国)

● 美しいエンメンタル (韓国)

(P.98~101)

実際に歌うことで表現の特徴を感じ取るための教材

オペラ

《カルメン》(P.72・73)

場面の状況や登場人物の心情などを把握しやすいことから《カルメン》を取り上げました。また、歌唱教材として厳選された2曲のアリアは、声楽家の宮本益光氏による日本語詞によって心情を捉えやすく、表情豊かに歌うことができます。

● オペラ・アリア 《ハバネラ》(P.74)

《闘牛士の歌》(P.75)

ジャズ

What is JAZZ? (P.102・103)

ジャズのプレイヤーがどのように音楽を作り上げていくのか、ピアノ・トリオを例に、実際に《枯葉》を演奏して体験できるよう紙面を工夫しました。

ロック

Rock History (P.104・105)

ジャズとともにポピュラー音楽の中心として発展を遂げてきたロック。1980年代を頂点とした歴史の流れについて、各ジャンルや代表的なアーティスト、曲やアルバムなどを紹介しながらまとめています。

資料

音楽を学習するうえで必要となる基礎的・基本的な知識の習得や、教科書の学習活動をサポートするコーナーを設けることで、生徒の表現と鑑賞の能力を育て、興味をもって主体的に学習できるようにしました。多くの生徒にとって「音楽を学ぶ」機会が音楽Ⅰで終わってしまう実情を踏まえ、卒業後も手元に残しておきたいと思える教科書になるような資料を豊富に取りそろえました。

基礎・基本の力

「ソルフェージュ」「楽典」などを取り上げ、音楽の基礎的・基本的な能力の定着を図れるようにしました。

18 solfège
ソルフェージュ

① **音符を読む練習** 1から順に音高を付けずに階名で読もう。また、ピアノやキーボードで実際に弾いて音を確かめよう。

②

③ **リズムを正確に読む練習** 音高を付けずに、メロディーのリズムを階名で読もう。その際、手で鼓の切りを軽く打ちながら拍を取ろう。

(P.18~20)

「楽譜を読めるようになった」と実感できるよう、豊富に課題を提示

歴史

「日本音楽の流れ」「西洋音楽の流れ」を簡潔にまとめて示し、鑑賞の際に歴史的背景も知ることができるようにしました。また、「郷土の民謡と芸能」「歌謡曲からJ-POPへの100年」においても、その歴史や背景を知って親しむことができるようにしました。

日本音楽の流れ (P.82~84)

西洋音楽の流れ (P.138~141)

郷土の民謡と芸能 (P.96~97)

歌謡曲からJ-POPへの100年 (P.112~113)

音楽の楽しみ

生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むことができるよう、さまざまな音楽に接する際の切り口を多様な観点から示しました。

Drums! 鼓動は時空を超えて (P.4~5)

アレンジャーは曲に魔法をかける (P.13)

舞台芸術 (P.66~67)

演奏会や観劇に行こう (P.69)

その他の資料

表現と鑑賞とを関連付けたページを含め、これまでに紹介した資料の他にも、教科書の学習活動をサポートするだけでなく卒業後も活用できる資料を豊富に取りそろえました。

ルールを守って音楽を楽しもう! (P.31)

オーケストラを知ろう (P.148~149)

コード・ネーム (P.154~155)

ギター／キーボード・コード表 (P.156~157)

作曲家の年表と主な作品 (P.158~159)

コードの押さえ方を動画で確認

C (メジャー)

動画でコードの押さえ方を確認

156 **ギター／キーボード・コード表**

ダイアグラム
●押さえる指 ●押さない指 ×押さない指 ▶ルート | セーハ(2以上の弦を左手の人差し指などで押さえる)
1-人差し指 2-中指 3-薬指 4-小指 ダイアグラムの下の数字=フレット番号

	C	C#/D♭	D	D#/E♭	E	F
□メジャー						
□7						
□M7 メジャーセブンス						
□m マイナー						
□m7 マイナーセブンス						
□dim7 ディミニッシュセブンス						
□sus4 サスフォー						
□○ オープンコード						

コードの押さえ方
Cコード
Dコード
Eコード
Fコード
Gコード
Aコード
Bコード
ベース

(P.156~157)

年間指導計画例

月	配当時間	題材名	題材のねらい	学習目標	主な教材
4 5 6 7	5	曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう	曲にふさわしい発声などの技能を身に付けるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、表現を工夫して表情豊かに歌う	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う	校歌/Ave Maria 「ヴォイス・トレーニング」/小さな空 O sole mio
	3	ポディー・パーカッションや“Cups”に挑戦しよう	ポディー・パーカッションや身近にあるコップなどを用いたリズム表現を通して音色や奏法、表現を工夫し、他者と協働しながら演奏する喜びを味わう	曲想と音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法などの技能を身に付けるとともに、他者と協働しながらイメージをもって表現を工夫して演奏する	Plymouth Rock Clap, Tap with CUPS! ソルフェージュ⑩～⑫
	4	表現を工夫してリコーダーを演奏しよう	リコーダーの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する	見上げてごらん夜の星を/天国と地獄 C-a-f-f-e-e/グリーンズスリーブス ザナルカンドにて
	4	J-POPや歌謡曲の特徴を理解して歌おう	J-POPや歌謡曲を取り上げ、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、イメージをもって歌うとともに、自分や社会と音楽との関わりを考える	曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解し、曲にふさわしい歌唱表現の技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌うとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える	Lemon/翼をください/負けないうで 若者のすべて/東京ブギウギ/クリスマス・イブ/「歌謡曲から」J-POPへの100年 「ルールを守って音楽を楽しもう！」
	3	「コード進行」をもとにメロディーをつくらう	多くの曲に用いられているコード進行をもとに、音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解し、さまざまな手法を活用しながらイメージをもって創作する	音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解し、反復、変化などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して創作する	「コード進行」をもとにメロディーをつくらう 「コード・ネーム」
9 10 11 12	5	音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう	声やさまざまな楽器が生み出す響きやその特徴が、どのような要素やそれらの働きによってもたらされているのかを探るとともに、音楽のよさや美しさを味わう	音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、根拠をもって曲や演奏を批評する	「音楽を織りなすさまざまな要素」 組曲《動物の謝肉祭》/交響曲第9番《合唱付き》から第4楽章/バレエ音楽《火の鳥》組曲 「西洋音楽の流れ」/「オーケストラを知ろう」
	2	能や謡に親しもう	実際に謡を体験して能の音楽の特徴を理解するとともに、能の魅力味わう	能の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けながら、表現を工夫して謡う	歌唱：《高砂》《羽衣》 鑑賞：能《道成寺》/「舞台芸術」
	6	表現を工夫してギターやウクレレを演奏しよう	ギターやウクレレの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	曲想とギターやウクレレの音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する	ギター：日曜日よりの使者/第三の男のテーマ ウクレレ：Michael, Row The Boat Ashore/真珠貝の歌
	8	日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう	さまざまな言語による歌曲に親しみ、それぞれの特徴を理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、表現を工夫して独唱する	曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う	むこうむこう/この道/「日本語と旋律」 「詩の心を大切に歌おう」/「日本語の歌詞の歌い方」/Caro mio ben/「Caro mio ben 大解剖!」/Heidenröslein(シューベルト/ヴェルナー)/Ich liebe dich オー・シャンゼリゼ
1 2 3	2	発音や発声を工夫して声によるアンサンブルをつくらう	オノマトペのもつリズム感やアクセントなどのおもしろさを生かして、他者と協働しながら表現を工夫してリズム・アンサンブルをつくらうたり演奏したりする	オノマトペを音楽素材として用い、それを連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴を理解するとともに、反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して創作する	創作：「オノマトペでリズム・アンサンブルをつくらう」 歌唱：虫の声
	8	表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをしよう	各パートの役割を理解するとともに、全体の響きをイメージしながら表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをする喜びを味わう	合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解し、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う	花/夏の思い出/「指揮にチャレンジ」 故郷/懐かしきケンタッキーの我が家 サザエさん/言わない/ぼくは ぼく おんがく
	4	和楽器に親しみ、演奏に挑戦しよう	和楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する	器楽：篠笛/三線/三味線/箏から選曲 鑑賞：箏曲《みだれ(乱輪舌)》
	2	世界の諸民族の音楽を知ろう	世界各地の音楽を、声や楽器に着目して鑑賞したり歌ったりしながら、その音色や表現の特徴を理解する	世界各地の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解し、音楽表現の共通性や固有性について考えるとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う	鑑賞：「世界の諸民族の音楽」 歌唱：京畿道アリラン 美しいエンメンタール
4 5 6 7	1	ミュージカル・ナンバーを歌おう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う	歌唱：Memory/美女と野獣 鑑賞：ミュージカル《キャッツ》 ミュージカル映画「美女と野獣」
	2	作曲家の生涯と作品をたどろう	J.S.バッハやW.A.モーツァルトの生涯をたどりながら、それぞれの作品の特徴を理解し、魅力を味わう	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、根拠をもって曲や演奏を批評する	「クローズ・アップ・マエストロ」 J.S.バッハ/W.A.モーツァルト
	4	オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う	音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う	歌唱：ハバネラ/闘牛士の歌 鑑賞：オペラ《カルメン》/「舞台芸術」
	4	さまざまな器楽アンサンブルを楽しもう	各パートの役割を理解するとともに、全体の響きをイメージしながら表現を工夫して器楽アンサンブルをする喜びを味わう	器楽アンサンブルによる表現の特徴を理解し、それを生かして演奏したり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する	ミッション：インポッシブルのテーマ タイムマシンにおねがい/星に願いを

主な学習活動	学習指導要領の内容													内容の取扱い						
	A 表現						B 鑑賞				(共通事項)									
	(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作			(1)鑑賞		音楽を形づくっている要素								
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	音色	リズム		速度	旋律	テンポ	強弱	形式	構成
・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●														(2) (4)
・リズムを正確に捉えるとともに、その重なり合いやつながりを意識して演奏する ・曲想に合った音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫する ・共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤したり意見を交換したりしながら演奏する				●	●	●	●	●	●											(2) (4) (5) (8)
・曲にふさわしい奏法や身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する				●	●	●	●	●	●											(2) (4)
・曲について調べたり意見を交換したりして曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●						●	●	●	●	●	●	●	●	(2) (4) (8) (11)
・コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくる ・反復、変化などの手法を用いてメロディーをつくったり、つくったメロディーにもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付ける									●	●	●									(2) (3) (4) (7)
・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きに注目しながら鑑賞する ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて意見を交換し理解を深める ・曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う												●	●	●	●	●	●	●	●	(2) (4) (8)
・能を鑑賞したり能について調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して謡い、表現に必要な技能を身に付ける	●	●	●	●	●	●														(2) (4) (6) (9)
・曲にふさわしい奏法や身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する				●	●	●	●	●	●											(2) (4)
・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●														(2) (4)
・オノマトペのもつリズム感やアクセントなどのおもしろさを生かして、それを連ねたり重ねたりしながら、パートの組み合わせなどを工夫してリズム・アンサンブルをつくる ・反復、変化などの手法を用いてリズム・アンサンブルをつくる技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●			●	●	●									(2) (3) (4) (7) (10)
・一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける ・各パートや指揮者の役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する ・共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●														(2) (4)
・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり鑑賞したりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する				●	●	●	●	●	●											(2) (4) (6) (9)
・世界各地の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解しながら鑑賞する ・それぞれの音楽表現の共通性や固有性について気付いたことや考えたことを述べ合い、理解を深める ・アリアンとヨーデルの声の音色、リズム、旋律などの特徴を理解し、曲にふさわしい発声で歌い、表現に必要な技能を身に付ける	●	●	●	●	●	●														(2) (4) (8) (9)
・ミュージカルを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったり、意見を交換したりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●														(2) (4) (8)
・作品を鑑賞したり、作曲家について調べたり、意見を交換したりしながら、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う													●	●	●	●	●	●	●	(2) (4) (8)
・オペラを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに、舞台芸術としてのオペラの特徴を知る ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●														(2) (4) (8)
・一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける ・各パートの役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する ・共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤しながら表現を工夫する				●	●	●	●	●	●											(2) (4)

検討の観点別に見た特色

	観点	教科書の特色
範囲	<ul style="list-style-type: none"> ●取り扱う内容の範囲は、学習指導要領の目標及び内容によっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●多様なジャンルから精選された教材によって必要な内容が十分に扱われており、音楽科の目標を達成するという観点から極めて適切なものとなっている。
程度	<ul style="list-style-type: none"> ●教材は生徒の心身の発達段階や生徒の実態に適切であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●歌唱教材においては、生徒の心情的な発達段階に応じた楽曲が取り上げられている。器楽教材においては、各学校の実態や生徒の習熟度に応じた楽曲が取り上げられている。また、鑑賞教材についても同様の扱いがなされている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●(共通事項)は、学習指導を進めるうえで適切に扱われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●表現及び鑑賞に共通する指導内容として(共通事項)に示された「音楽を形づくっている要素」に関する学習が示されており、その考え方の具体的なヒントとなる「音楽を織りなすさまざまな要素」が掲載されている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●教材の選択及び扱いは、学習指導を進めるうえで適切であるか。 ●三つの資質・能力を育成することができるよう配慮されているか。 ●説明文やイラスト、写真などは、学習指導を進めるうえで適切であるか。 ●「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、配慮や取り組みはなされているか。 ●我が国の音楽や音楽文化に対する配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広く変化に富んだ学習活動を行うことのできる教材が用意されており、生徒が興味・関心をもって意欲的に学習を進めることができるよう配慮されている。 ●基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指し、生徒が確実に「分かる」「できる」を実感する教材や説明が適切に配列されている。 ●「思考力、判断力、表現力等」の育成を図ることができるよう、思考した内容を記述する例や生徒どうしの会話から曲の分析を行う教材などが掲載されている。 ●説明文は平易な文章で書かれており、その配置も工夫されている。 ●イラスト、写真の取り上げ方もアイデアにあふれ、音楽的感性を育成しながら知的理解を深められるよう配慮されている。 ●生徒が自ら主体的に学習活動を進められるように、各教材に学習内容や活動のポイントが明確に示されている。 ●創作の活動においては、生徒の能力に応じて弾力的に進められるよう配慮されている。 ●鑑賞の活動においては、日本独自の文化の中で育まれてきた音楽の特徴を感じ取ることができるよう配慮されている。器楽の活動においては、各学校の実態に応じて取り組めるよう4種類の和楽器が取り上げられている。歌唱の活動においては、能の謡の一部を体験することができる教材が掲載されている。また、音楽的側面からだけでなく、文化的側面からも捉えられるよう配慮されている。
構成	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校、中学校における学習内容との系統性、一貫性に配慮されているか。 ●各学校や生徒の実態に応じて学習指導計画を立てられるよう配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校、中学校の義務教育における音楽科の目標の上に立った内容の教科書となっている。 ●歌い継いでいきたい日本の歌を「心の歌」と題して小学校、中学校から一貫して取り上げており、日本の歌に対する配慮がなされている。 ●各教材に示された学習内容や活動のポイント、歌唱・器楽、資料の「ジャンル別MAP」などにより、各学校や生徒の実態に応じて学習指導計画を立てられるよう配慮されている。 ●表現教材と鑑賞教材との関連が図られており、複数の領域や分野を通じた題材設定がしやすいよう配慮されている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●教材の配列は適切であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領の内容に即した教材が適切に配列されている。 ●表現教材と鑑賞教材との関連が図られているとともに、ページ間に張られたリンクによって、理解を深めたり関連付けたりすることができるよう随所に工夫がなされている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●教材の分量は適切であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●豊富な分量の教材が扱われており、各学校や生徒の実態に応じて柔軟に対応できるよう配慮されている。
人権	<ul style="list-style-type: none"> ●国際理解、情報、環境、人権教育などに配慮されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全体を通して、人権教育に対する適切な配慮がなされている。また、諸外国の文化に対する理解を深めることについても配慮がなされている。 ●音楽に関する知的財産権について「ルールを守って音楽を楽しもう！」が掲載されており、生徒に分かりやすく説明されている。
体裁	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の体裁は教科書として適切であるか。 ●印刷、製本などは適切であるか。 ●ユニバーサルデザインへの配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●A4判で楽譜が見やすく、紙面のレイアウトも統一感があり、教科書として適切なものとなっている。 ●表紙や扉からも音楽に対するメッセージが感じられる体裁となっている。 ●全ページにわたって美しいカラー刷りとなっており、楽譜、文字、イラスト、写真などが鮮明に印刷されている。 ●製本は長期の使用に十分耐える堅牢なものとなっている。 ●再生紙を使用し、リサイクル可能な表紙加工を施すなど、環境に十分な配慮がなされている。 ●全体に区別しやすい配色を用いながら必要に応じて形状や濃度を違えるなど、確実に識別できるよう配慮されている。 ●ユニバーサルデザインフォントが使用されており、誰もが読みやすい文章や楽譜となるよう配慮されている。

別売 鑑賞参考教材ソフトについて

教科書に掲載されている「世界の諸民族の音楽」の授業展開を強力にサポートする鑑賞参考教材ソフトが、Blu-rayで登場！
迫力ある演奏のみならず、各国の風景や美しい民族衣装などの文化にも触れることができます。DVDをはるかに超える高解像度と、最新技術のマスタリングによる臨場感あふれるサウンドで楽しめます。



世界の民族音楽

- Blu-ray1枚 / 収録時間 202分 ● 価格 19,800円(本体 18,000円+税 10%)
- 全ての映像について、各分野の研究者によるライナーノーツ付き

この他、音楽鑑賞DVDでは「日本の伝統芸能 編」と「民族編」を販売しています。どちらも鑑賞や音楽史の授業に最適です。



日本の伝統芸能 編

- DVD1枚 / 収録時間 126分
- 価格 19,800円
(本体 18,000円+税 10%)
- 雅楽、琵琶楽、能楽、文楽、歌舞伎の成り立ちと魅力を紹介
- 鑑賞演目は副音声解説付き



民族編

- DVD1枚 / 収録時間 146分
- 価格 19,800円
(本体 18,000円+税 10%)
- 38カ国、全59曲を収録
- 民族音楽研究家、江波戸昭先生の解説付き

第1表

高等学校用教科書需要票

見 本

発行者	番号	27	略称	教芸	需要数	生徒用	150	冊
	記号	音I	番号	703		教員用	2	冊
教科書	書名	MOUSA 1						
	計	152 冊						

所在地
学校名
電 話

(全日制・定時制・通信制)

KG 教育芸術社

- 本 社 〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-14 TEL.03-3957-1175(代)
- 中部支社 〒460-0024 名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル8F TEL.052-678-3151(代)
- 関西支社 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-14-17-601 TEL.06-6943-7245(代)
- 西部支社 〒751-0808 下関市一の宮本町2-7-14 TEL.083-256-4747(代)

ホームページ <https://www.kyogei.co.jp/>